

## 磐田市文化施設等のあり方に関する検討委員会（第3回）議事録

平成26年12月15日 13:30

磐田市役所本庁舎 大会議室

### 出席者

委員：大石留美、小栗 華、小野泰弘、三枝幸文、杉田友司、鈴木正典、  
高木昭三、鳥居 勤、永井聡子、橋本安弘、村上勇夫  
事務局：企画部長、秘書政策課長、市民部長、文化・体育施設等整備室、  
文化振興課

- 1 前回会議に係る資料（市民文化会館の詳細な利用状況等）について  
・・・文化振興課長より説明
- 2 今までの論点及び今後の決定すべき事項について・・・事務局より説明
- 3 事務局の考え方について・・・事務局より説明

### 4 意見交換

#### 文化行政の必要性・重要性について

（委員長）

事務局案に対し、皆さんのご意見を伺いたい。はじめに「文化行政の必要性、重要性」について、考え方・方向性など、ご意見よろしくお願いいたします。

（委員）

会館の利用状況と県内ホールの稼働率の比較があるが、マリナートとか市民文化会館等の席数を教えてほしい。

（文化振興課）

静岡市のマリナートの席数が1,513席、磐田の市民文化会館が1,500席、静岡市民文化会館の大ホールが1,968席、小ホールが1,184席、アクトシティの大ホールが2,351席となる。

（委員）

行政として将来の磐田市の文化施設がどうあるべきなのか。そのことがあまり見えてこない。現行の市民文化会館は、建て替えるという考え方でいくにしても、磐田市の文化事業というものはどうあって、それがどう文化会館に帰するのか、そういうことをしっかりした上で建て替えなければいけない。建て替えるなら何人規模にするのか、会館ホールの仕組みもこうあってほしいとかというようなところが出てこないといけないのではないかと思った。耐震性がどうにもならないから建て替える。お金はどうするんだというような意見を言うのではなく、どのような文化事業を市として打ち立てて、それに相応する会館としてどうあるべきなのかというのが一番大事な議論なのではないか。

(委員)

テーマとして必要性・重要性となっているが、これを見て、この認識でいいかといわれてもなかなか意見も出ないと思う。そのためには、磐田の文化政策がどうあるべきかということで、例えば、5つの施設をどうすみ分けしていくのか、そういうところを含めて、この文化会館はどうあるべきかというところを考えていかないと、なかなか建て替えだとか集約するだとかいうことも進まないのかなと思っていた。ただ、第1回目の資料をみると、この会館はかなりの稼働率があるので、すみ分けとかそういうのはおいておいて、話が進んでいるのではないという気がしないでもない。先ほど言ったような5つのホールの役割、あり方を考えていかないといけないのではとも思う。

(委員)

少し不安に思ったことは、今までの市民会館の使用状況の内容をみると、いわゆる旧郡部で行われている利用状況というのが反映されていないのではないかとということである。このまま進めて、もし市民会館が建て直しになった時に、磐田市全体のホールの需要を満たされるのかどうかちょっと心配になった。だから、集約することも前提として考えているのであれば、他の会館の使用状況ももう少し見つめて、トータル的に出したものが必要なんじゃないかなと思う。

(委員)

今の当局の方向性に従うと、だんだん集約していくという考え方をとっているようである。大規模修繕でお金がかかりすぎた段階で、施設をやめていくということであるが、大体の目処として、例えばアミューズであれ、なぎの木であれ、どのくらい大規模修繕を必要とせずに小規模修繕でもたせられるのかなという想定はどうか伺いたい。それと、ここまではお金がかけられないという大規模修繕の目処というのはどれくらいと考えているか。

(事務局)

空調や塗装、水道系のような設備の修繕がまず必要になる。空調は年数的にはおよそ15年くらいと言われている。しかし、いったん直せば15年くらいはもつのではないかと思う。平成に建てられた建物はほとんどがRCで、一般的には60年が耐用年数と言われている。磐田市の場合、平成に建てられた建物は、築後20年、30年のものが多いので、いったん小規模修繕をして15年は伸ばすことはできるかなと思う。だから一元化というのはあくまで将来的に15年くらいの長いスパンということである。

(委員)

集約する段階というのはまだ先だということ。設備的なものは手を加えながら、躯体そのものはもつものだから、実際に現実に集約していくというのは、かなり長いスパンで見てということであって、今の段階で集約という議論を考えなくてもすむということか。

(事務局)

当然、利用も現在あるので、今すぐ3年後、4年後ということではない。しかし、更新となると多額の費用になるので、更新はしない。それも随分先の話なのだが、そういうような段階だということでご理解いただければと思う。

(委員)

3～4年先というのはないと思うが、それが10年なのか20年なのか。いさだホー

ルであれ、アミューズであれ、市としては、だいたいどれくらいもたせようと考えているのか。

(事務局)

いったん修理すると、最低限15年ほどはもつ。15年、20年経つと築45年あたりになる。その頃は修繕できないというイメージになる。

(委員)

例えば3年先に空調がだめになったというときに、新しいものと古いものが併存していくということをイメージすればよいか。また、空調を更新すればまた0に戻るから、その間は新しいのを建つのをやめようかという話なのか。全体的に統合というものをどう考えているのか。

(事務局)

だいたいイメージできる建物というのは、竜洋のいさだホールと豊田のアミューズ、それから福田のホールになるが、福田の方は、耐震の時に設備更新を行ったので、少なくともあと15年くらいは大丈夫だと思っている。竜洋に関しては、もう築20年になるので、そろそろ空調の関係などは、厳しくなってくるかなとも思う。ただ、築20~30年で廃止してしまうということは、RC60年ということを考えてありえない。財政負担を伴うので、一存では決められないが、イメージ的には小規模な空調系だけだったら修繕を行いたい。つまり、併存は当然あると考える。

(委員)

最終的には集約するという事なのか。

(事務局)

将来的には一元化ということである。

(委員)

それが15年先なのか、20年先なのかわからないが、その頃にはということか。

(委員)

すぐに耐用年数がくるのは、文化振興センター。いさだホールやアミューズは、少しもたせられるということになると、そこは議論としておいておいても、文化振興センターは間違いなく市民文化会館と同じタイミングなので、つぶすのは目の前に来ている。そうすると、文化センターの今持っている会議室の機能だとか展示機能だとかというのは、今後早急に議論をしていくという考え方でよいか。

(事務局)

建設予定地の検討のところにも明記したが、文化振興センター機能についても検討するという事である。あくまでも事務局案の段階だが、文化振興センターについては今、委員のおっしゃった通りの現状なので、検討しなければならないと思っている。

(企画部長)

実際に今の文化振興センターは市民文化会館のリハーサルとか準備とか控室にも使われている。そういった機能は文化会館の方にもって行って、それ以外の会議室だとか展示室だとかそういったものは、文化会館に併設してつくるのか他の場所につくるのかは別として、機能は何らかの形で確保していきたい。

(委員長)

話をもとに戻して、文化行政の必要性・重要性についてご意見を伺いたいが、如何か。

(委員)

文化協会のみなさんの意見について具体的なことは何も聞いていないので、そのことを聞かないとなかなか答えが出せないのではないかと思う。

(文化振興課長)

文化協会の方から文化芸術活動の拠点となる施設整備、展示施設も含めてという意味合いの要望などもいただいている。そういった中で人口20万都市にふさわしい明るい未来の創造のために施設整備をお願いしたいとか、文化行政の拠点となる文化会館や文化振興センターの役割は非常に大きいと感じているというような意見、あとは、文化の振興は、市民個々の品性の向上と豊かな人間性をはぐくみ、地域社会との協調、協働の力を育てる要素が大きいというような意見も合わせていただいている。文化協会としては、今後の政策の中で文化行政の位置づけなどを示しながら施設整備についてしっかり議論して、いい施設がほしいという要望をいただいている。それ以外の団体についても同様に、長い間磐田の地で活動している団体としては、演劇など行うのにふさわしい会場をつくってほしいとか、閉館についてもできるだけ空白期間のないように利用させてほしいという意見もいただいている。

(委員)

当然文化協会の方々も、そういったように言われると思うが、それがどこまで妥当かということをご一緒に話し合わなければいけないという理解でよろしいか。

(委員)

文化施設の問題に関しては、磐田市だけの問題ではない。今はそういう時代ではなく、大きくものを考える必要があるかと思う。造るならしっかりしたものを造って、外からも来てもらえるようなものにする。絵画だとかそういう展示ができるものを造っていくという考え方もあるが、それはまた、場所を考えなければいけない。市民会館とそれ以外の物については分けて考えてみてはどうか。今も、文化会館は二つに分かれているが、ああいう中で会議をやり、あるいは展示をするというように分けていく必要があるのではないかと思う。各団体から磐田の市民会館は使いやすいという話を聞いている。それは、後ろにいくつかの部屋があって、そういうところが充実しているのだから、使いやすいということ。だから、どういう区分けをするのかということである。それからもう一つは、磐田だけでもものを考えていいのかなということ。もう一つは、集約するという考え方は、将来に向かってという話なのだが、竜洋とか福田とか豊田のホールが将来において使えなくなった時に、市民会館を造っておけば使える。それが一つになるという考え方だと思っているので、その辺りを議論して方向付けをしていく必要があるかと思う。

(委員)

委員がおっしゃったことは3つに分かれている。一つは、磐田市だけでもものを考えていいかどうか。それから、舞台芸術、そういったものとそれ以外のものとの使い分けを考えるべきだということ、あとは、磐田の市民文化会館以外のホールを集約したときに、その機能を全部市民文化会館でやるということも考えておく必要があるんじゃないかということである。

(委員)

稼働率の状況調査をした時の一覧表やアンケートの中身というのは、公開できるか。  
(文化振興課長)

アンケートの中身については、独自で調査した部分と県の公文協という組織があって、公文協の資料も使っている。これらの数字は公開しても支障がないと思っている。

(委員)

公文協の資料というのがあるので、それとどこが違っているのかと思ったので質問した。稼働率が県で5番目に入るといのは、思ったより良かったなと思っている。ただ、数字的には5番目だが、舞台芸術と言った時に、どのレベルを磐田市で将来希望するのかということだと思う。アクトシティは4番目だが、芸術監督はおいていなくて、2番目、3番目の文化会館も専門家がない、1番目はアドバイザーが入っていて、年に1本か2本はオリジナルの事業をやっている。しかし、ほぼ貸館。貸館競争の中でこういう順番なのはよいこと、それ以上のものを皆さんが求めるかどうかということだと思う。舞台芸術か展示室かという話に関わってくるが、舞台芸術でも、磐田市が理想とする舞台芸術公演を、買ってくるなり創作するなりしてやる準備があるかということと地元の人たちが演劇公演をやりたいかどうかということ。また、展示でも、どこかのコレクションに匹敵するようないい絵画を持ってきたいかどうか、小規模でもいいからギャラリーとして開設したいかどうかということや書道や手芸などの展示をしたいかどうか、つまり創作という職業をもっている人たちの空間をつくるか、市民が参加しやすい空間をつくるかということになるかなと思う。舞台施設をつくるうえでも、プロ仕様の空間と市民仕様の空間というのがあると一番利用しやすいのかなと思う。杉並区の高円寺に小さい劇場があるが、それは2つホールを持っていて、プロ仕様の空間と市民が利用しやすい空間2つの小ホールとなっている。あそこは芸術監督や館長も舞台の人だが、そういった形で地域に貢献するというで設計して開場した。

(委員)

人口減少社会で、磐田はおそらく25年後には3万人減る。当然減らないように政策は打っていくが、それでも減っていくと思う。減っていった段階で各施設も駄目になる。当然それを見込んで集約を考えるタイミングでもあるわけだから、現時点であまりにも過大なものを考えて、集約したときに全部、現時点の人口でそのニーズに応えられるようにする必要はない。やはりタイムスパンを考えながら、集約したときにどれくらいのもが必要かということも考えなければいけないと思った。ただ、本来的には集約したときに受け入れるとしたら、いくら人口が減ってもそこそこのホール機能をもったものでなくてはならないとも思う。そうすると今持っている展示機能も、本当は別にすべきだろうが、財政の問題が関わるので、そこで一緒に追い込まざるを得ないという点が妥協になってくるのか、それは議論の対象になるのかと思う。これから、どちらかというと右肩下がりの時代だということはどうしても考えざるを得ないだろうと思う。

## 市内ホールの在り方について

(委員長)

次は、「市内文化ホールの在り方について」の考え方について意見ををお願いします。

(委員)

現在あるホールを将来的にどうするかというのをはっきりさせた方がいいのではないかなと思う。いろいろな意見が出ると思うが、そうしないと新しくする市民文化会館がどうという内容でどういう規模でということが定まらないような気がする。

(委員)

その他の4つのホールについてだが、これらを集約していった結果として今のホール以外にもっている機能はなくなっていくのか。そのあたりのリスクというのはないのか確認しておく必要があると思う。

(事務局)

公民館の方は、交流センターという形で方向性を変えて地域の活動をしている。ただし、いろいろな年度に建てられた施設があるので、どこかの段階で更新という時が来る。その更新に関して、人口減少が目の前に来ているので、短いスパンではなくて長いスパンで考えた時には、様々な施設を集約・複合しながら、機能はもたせていくというような形のもので将来的には考えられていくというように思っている。現時点でどうするかというのではなくて、将来的な公共施設の考え方があるので、そういった部分で同時に考えていかなくてはならないと思う。ただし、どこかに機能は残していくという形になる。

(委員)

一元化は避けられないと考えた方がいいのではないかなと思う。今お話があったように、仮に一元化をする時に、デメリットをどうやって減らしていくかという議論の方に進んでいかないと一元化がどうかということを行っている、入り口で止まってしまうので、一元化はやむを得ない。ただ、一元化をした時にどんなデメリットがあり、それをどう克服していくか、そのためにどうするか。これも建て替え、耐震、廃止と3つ選択肢はあるが、建て替えしかないと思う。建て替えした時にどういう市民会館をつくっていくかという議論に階段を上がっていかないと議論できないような気がする。

(委員)

私も結論は建て替えしかないと思う。市民のみなさんがいい演劇をみたい、いい音楽を聞きたいということを実現するところが磐田にあっていいのではないかなと思う。例えば、地域の皆さんが考える時には、地域の皆さんがそれぞれ趣味の世界で造ったいろいろな展示物が展示されるとすれば、これは、中央へ持って行って展示させるよりも地域の方で観られるようにすることが大事なことはないかなと思う。地域づくり街づくりの一つとして、交流センターやそれに代わるものを行政として推し進めようとしているから、そういうところにある程度のものを求めていく。磐田だけじゃなく、隣接する市町村からも利用されるような、そういうものを一つ造っていく。今言っている3つの施設がどうだということについては、最終的にそこが使えないということになれば、一元化せざるを得ないという方向になっていくと思う。そうして、20年、25年経ったときに困らないようにしておく必要があると思う。そう考えると、今ある市民文化会館は取り壊すという方向でしかない。そして、一元化の方向をやがて迎える。それで私はいいと思っている。そうしたときに、新しく建てる文化会館に、いい演劇が観れる、いい音楽が聴けるという部分の他に少しミニ的なものができるようなものを設けておけば、やがて他の施設が壊れてもそこで何とかやっていけるような気がする。

(委員)

一市三町一村が合併してから10年、合併したからそれぞれの地域にそういうものがある。磐田市が一つになれば、一つのものを造っていけば済む。その造るものをいかにレベルの高いものにするかということではないかと思っている。これからどういう形になるかはわからないが、施設を検討する段階になってきた時に、大きく1200という数字が出たことがあるが、そういうものを造り、その横へ小さな200人、300人のものを造るとか、そういうものがこれから詰めていく中で出てくると思う。とにかく、17万の街らしいしっかりしたものを造ることが今大事なことはないか。

(委員)

集約して一元化して、そして建て替える。こういう方向は避けられないんじゃないかと思う。先ほど、一元化ということは若干抵抗があるというようなお話もあったが、どちらかという建て替えの方向であるように思う。もともと各町に合併の前にそうしたものがあって、そして合併後、これからは一つの磐田市として考えていくべきだというような意見だと思う。

(委員)

一元化に抵抗があるというわけではない。私も中心となるものに一元化するべきだと思う。今のままだと中途半端にしておくというのが前提になるので、今度造ろうと考えている市民文化会館が中途半端なものになってしまう。それを心配しているので、やめるならやめるということをはっきりして、この市民会館の内容を検討した方がいいんじゃないかと思う。

(事務局)

まず文化ホールのあり方の一元化するということだが、こちらの方は、皆さんのご意見を伺うと、合併後、磐田市がこれからもさらに一つになるというイメージも含めて一元化していくということによろしいか。次の各ホール、文化振興センターについては、あくまでも更新はしない。設備系の修繕、小規模修繕はして、またそれから15年、20年あたりで、その次の修繕の時期が来るので、その時には閉館するということによろしいか。それから、建設予定地については、この委員会で検討する内容に含まれていないので、来年度に改めて検討機関を設け、検討させていただくが、その際、文化振興センター機能、それから市民文化会館そのものの機能についても検討するということによろしいか。

## 耐震補強等について

(委員長)

それでは、次に耐震補強についての考え方ですけれども、事務局案の「建て替え計画に一定の目処が立った時点で、市民文化会館は速やかに閉鎖する」ということについてご意見を伺います。

(委員)

建て替え前までに、地震が起こって被害が発生した場合の責任はどうなるのか。

(文化振興課長)

耐震性能がないということは、公表している関係で十分ご存じだとは思いますが、万が一

被害が出た場合は、やはり最終的な責任というのは、市の方にかかってくる。人的被害とか設備がくずれるとかいろいろ想定されるが、そういったものは、市の責任になってくる。文化会館は、全体をもって0.48という低い数値ではなくて、一部分の強度が低いということである。少し前に耐震診断をした時に、大きく崩れるようなことはないという検証もされている。そうはいつでも地震の規模にもよるが……。心配しつつ運営管理はしている。

(委員)

本来、備えるべき耐震性能をもっていて、それにもかかわらず、地震が大きかったんで崩れて被害が出たというのなら仕方がないが、本来あるべき基準というのをもちわなくて、それによって起こったとしたら、責任は免れないんじゃないか。その時にどんな責任、損害賠償責任なのか、どういう責任を負うのか、そこまできちりと把握しておいた方がいいのではないか。

(文化振興課長)

施設管理者としての最終責任は、すべて市にあると考えているが、法的な責任というのは別に道義的責任も一緒に発生してくる。静岡県の耐震基準というのが、全国レベルよりも高いので、それに対しては満たしてはいないが、全国規模の中で0.48という耐震基準については一部分ということを考えれば、工事をやらなくてはいけないというものは、発生していないと考えている。

(委員)

満たしていない部分の工事はやらなくていいのか。

(文化振興課長)

0.48というのは、今言ったようにほんの一部分の強度をもってすべての耐震性能が0.48ということで公表しているのだから、全体でいけば全国の耐震基準は満たしているが、静岡県基準は満たしていないという判断をしている。

(市民部長)

耐震診断で低い数字が出たからと言って即時建て替えなければいけないという法的拘束力はない。ただし、いわゆる建築基準法では、耐震診断の義務化と結果の公表までは義務付けられているという現状にある。できるだけ努力して早く補強してくださいということにはなる。現在一部でも低い数字が出ているのに何年もほったらかしておくんだという意見は当然のことと思われるが、実は先ほど申したように、前回の耐震診断でも建物全体が強度抵抗型であって大破することはないということと、ホールの天井ボルトの補修工事等を行ったということで現在まで使っているという状況にある。それ以降10年以上過ぎているので、耐震についても心配なレベルまできているのは間違いない。それ以上に、先程からこの施設はどれくらいもつかという話がいっぱい出ているが、RC60年とは言っても、実際には中身の様々な設備というのは35～36年でだめになってしまうとあっていいだけではないかと思う。他の施設もだいたいその程度でおそらく限界が来るだろうというように思っている。また、低い判定でほったらかしておいて、万が一地震が起きてどうなるんだということ、これは当然耐震診断が出ている以上、おそらく市の瑕疵というのを認めざるを得ないと思う。阪神淡路の震災の際、マンションとかホテルが壊れて、人が亡くなった時にその瑕疵の有無で責任割合というのが問われることに



なり、損害賠償を負ったという事実があるので、当然こういう話はそれが天災であろうが出てくると思う。

(委員)

ここに出ている「建て替えの目処が立ったら速やかに閉館する」というのは2つのポイントがある。建て替え計画ということならば、どれくらいのタイミングで造るのか、それと市民会館は早い段階から予約が入るので、閉館する前に告知をしなければいけないと思うが、そのタイミングとしてはどのくらいの時期をイメージされているのか。

(文化振興課長)

スケジュール的な考え方だが、仮にあり方検討委員会で新しい施設を建てようという結論に至って、答申のように進むとすれば、次に建設検討委員会という具体的に検討していく組織を立ち上げながら詰めていこうと思っている。基本構想とか基本計画を作成する期間で1年とか2年はかかるとしているので、その後実施設計とか建築までみると、順調にいけば5年くらいを目指して新しい施設の建設、オープンに向かっていきたいと思っている。その5年ほど先を想定したときに、いつごろ施設を閉めていく必要があるかということだが、なるべく空白期間は短くしてほしいというようなご意見をいろいろな文化団体からいただいているので、建て替え計画に一定の目処が立った時点で閉館するというのは、私どものイメージでは、建設に入った時に閉めさせてもらうというものである。

(委員)

閉館をする前に市民に言わなければならないと思うが、そのタイミングとして1年前とか1年半前とかというのはどうか。

(文化振興課長)

今、市民文化会館は1年前からの予約受付をしている。少なくとも1年前以前には、告知をしないと受け付けはできないと思っているので、今の段階で言うともう建て替えをしようという意見が出て、次年度以降の建設検討委員会では、合わせてそれを議論していく必要があるかなと思っている。

(委員長)

それでは、事務局の方からお願いいたします。

(事務局)

耐震補強等については、今文化振興課の方から質問に対してお答えさせていただいた。この会の中では、そのような説明をさせていただいたが、今回の委員会の中では、「建て替え計画に一定の目処が立った時点で速やかに閉館する」というように告知をさせてもらうということをお願いする。つまり、閉館時期についても建設委員会の中で検討させていただくということになる。

## 市民文化会館の施設規模について

(委員長)

只今の耐震補強等の項目に関しては、今の事務局の説明のように進めることにして、次に市民文化会館の施設規模、今までにもここで議論されたこともあるし、すでに今日の議論の中でも、人口減少社会というものを想定しなければいけない。それから他の面

では、使われなくなって一つに集約された時のことを前提に規模というのを考えていかななくてはならないというようなご意見があったが、他にご意見があればお願いいたします。

(委員)

今日の資料を見させていただくと、1200人以上の入場が30日あったと載っている。ただ、これは本番だけで、実際には本番以外の練習も含めて、事業というのはあると思うので、練習とかりハーサルの日数はどうなのかなと思っていたところ、1200人以上入場した事業のリハーサルや練習の日数が32日くらいあった。そうすると60日くらいあるということになる。1200人以上のニーズはかなりあるんだろうというように思っている。1000人以上も63日になっていて、これも練習のところを調べたら36日あるということなので、本番以外でも1000人以上の日数が70日くらいある。これらのことを考えると、1500くらいの現状の規模は維持した方がいいのではないかと私は思う。

(文化振興課長)

1200席を超えた場合の人数が、今言われたように事業で22事業、練習で43日あり、合わせて65日になる。今の稼働率は73.2%、224日あるけれども、1200席に限定すると159日、稼働率が52%ということで21.2%減少しているという数字も出ている。逆に言うと、1200人を超えた利用も出ているという現状である。

(委員)

1200を超える利用も存在しているという理解でよいか。

(文化振興課長)

1200を超える事業が65日あるというようなデータになる。

(企画部長)

必要性とか重要性とかでいろいろとご意見いただいている。広域的な問題というのは当然ある。例えば、浜松とか掛川とか、そこで施設の規模をどのくらいまでもっていくかという自治体間のすみ分けみたいなもの、あとは舞台芸術を本当に特化するのか、それとも展示機能を併せもつのか、あとは財政問題もこれから出てくるが、そういった問題をいろいろと絡み合わせると、実際には、先程説明した来年度設置する検討機関で規模とかを決めなくてはならないと思っている。今回、今までのご意見を伺って1200人規模程度と提案したが、規模というのは専門的な見地から考えることが必要となってくるので、これは修正してもらっても全然構わないが、皆さんの意見がそういう形であれば、1200人~1500人程度という形で、実際には専門的な部分で検討していきたいと考えている。

(委員)

1200人~1500人の施設では、使える人と使えない人がいる。例えば、バイオリンの独奏とか、こういうことをやる場合、1500は多すぎる。そうすると小さなホールもほしいということになる。集約をしてこれから新しい施設を造ろうとするならば、200人~300人は入れるような小さなホールも建設する必要があるのではないかとと思う。500人の席があるのに、200人とか100人でやっていて、だから稼働率が

低いのではないかという意見もかつては議会でもあったようだ。

(企画部長)

1200人～1500人の規模の大ホールという話もしたが、合わせて小ホール設置の可能性も検討するという形でご了承いただきたい。

## 財政問題等について

(委員長)

それでは、最後に財政問題等についてお願いいたします。「将来に過大な負担をかけないような資金活用を検討する。」ということです。そのことも含めて質問もしくはご意見がありましたらお願いいたします。

(委員)

具体的にどのように財政計画をしようとしているのか。資金活用を検討するとか過大な負担をかけないとか、こういう仕組みでやるということを説明してほしい。こういう方法で考えているとかこういう方法でいきたいとか。

(企画部長)

財政問題ということで、今回の資料で、平成32年度まで延長できる合併特例債の適用期間内に施設整備またはPFI等の民間活力の活用ということを示した。実は、市でも借金というのは可能だが、平成32年度までは、非常に有利な借金ができるので、基本的にはそういったものを活用していきたいと考えている。それはどういうことかと言うと、単純に一つの施設を造るのに、仮に100億円かかる場合、当初5億円くらいの財源があればできるということで、そのうちの70%程度は交付税という形で後で戻ってくる。そういった一つの算段がある。もう一つは、PFIということで、これも単純に言えばローンみたいなもの。100億の事業を金利を付けて何年か、施設の建設、設計、運営も含めて民間に任せるという方法がある。基本的には、この二つの方法を考えている。市の財政規模が今だいたい600億円前後で毎年推移している。これも合併して16年間はいろいろな動きがあり、国や県からもそれなりの支援金が入っているが、今の想定だと、平成33年度から恩恵がなくなり、予算の規模が単純にいうと30億円くらい減ってくる。そういった中で、事業を進めていくかということになると、やはり一般財源だけでは無理なので、そういった特例債とかPFIの活用をこれから具体的に専門的な委員会で検討していきたいというように考えている。また、1回目、2回目でも説明しているが、市の公共施設が昭和41年から昭和60年にかけて集中的に整備が進んだということで、整備後30年以上経つ建物の割合が半分強ということもある。ここでは文化施設のあり方検討委員会ということで、ホールについて検討しているが、これ以外に学校とか、そういったものもこれから一体校とかいろいろな形で並行して進めなければいけないという中で、いかに財源を生み出すかということになると、やはり合併特例債とかPFIを活用していきたいというように考えている。

(委員)

平成32年までに造らなくてはいけないということを言っているのか。

(企画部長)

基本的には、建て替えするとなれば、32年度までに造らざるを得ないだろうし、ま

たそうでないとなかなか財源が確保できないということになる。

(委員)

市民会館がどういう規模でどれくらいの金額になるのか、いいものを造ろうとすればそれだけ公共事業としてはとてつもないお金がかかってくる。それが30億でできるものなのか、あるいは50億かかるのか100億かかるのか、そこがよくわからないわけで、ここで財政問題について話をするのはなかなか難しいと思う。20億、30億なら財政調整基金があるが、もっとかかるのなら、今言ったものを考えなければいけない。合併特例債等は、一つの方法だろうということはいくしかないのではないかと。

(企画部長)

今回賜ったいろいろなご意見、広域的なすみ分けの関係とか、施設の規模、小ホールも含め、そういったものをいろいろ考え合わせ、来年度の委員会の中で具体的に財源の問題もある程度目処をつけていきたいと考える。

(委員長)

今後、市にとって大きな支出があるのは、どんなことか。

(企画部長)

市の大規模な事業としては、これ以外に新東名のスマートインターチェンジが27年度あたり、JRの新駅が30、31年度にある。あと想定される大規模な事業は現時点でないわけだが、その辺も踏まえて、財政の工面の仕方は考えていきたいと思っている。

(委員)

もう一度確認しておきたいのだが、この委員会の目的は何か。要するに、この文化会館について検討するわけだが、当然ながら既存の文化会館は、建て替えるのか建て替えないのか、あるいは耐震補修するのか、ということを経営する。それに基づいて、既存の合併後の4つの施設が将来どうあるべきかということを経営するだけなのか。例えば、建てるのだったら文化施設としてこうしてほしいというような意見は言ったが、あとは文化会館の建設委員会に任せてしまおうということだと、この委員会は、何を決めようとして設置され、行政側は何を求めているのか。単純な言い方をすれば、今の文化会館は、もう耐震性がないのだから今から補強しても仕方がない。金もかかるから、それならばなくしましょう、そうするとどこか新しいところに一か所に設けなければいけないけれど、新しいところはこれからの委員会に任せる。だからここでは、今ある既設の会館はだめ、だから建て替えましょう、その結論が一つ。それで建て替えるのだったら、どのような会館にしたらよいかというのは具体的には、この後出される建設委員会で進めていく。こういうことであるならば、私は今までの議論は、100%と言いますが、それに即しているのかなと思うが、そういう目的なのか。

(事務局)

要綱によると、この委員会の目的は、文化施設等の再配置及び統廃合に関するものが一つ、それから前号に規定する事項の方針に関わること、その他委員会が必要と認めることしか所掌事項として書いてはないが、今委員のおっしゃったことをこの委員会の中で、決定させていただきたいと思っている。最初の会議の時に、文化協会の方々がいらっしやらないのはなぜですかというような質問もあった。それはなぜかということとは説明させていただいたが、今回はいろいろな立場の皆様にお集まりいただき、施設自体に

ついて、重要な3ポイントぐらいのことについていろいろな立場の皆様方のご意見を聞いて、方向性の確認をしたいというのが主なものである。

(委員)

この委員会で結果として建て替えですというのが結論だということで、これから議論が進展していくということか。その議論が進展していくときにこの委員会は終わって、会館の建設委員会的な分野が設けられ、そこで決められていくということなのか。

(企画部長)

市のいちばん上位計画である総合計画の中には、文化芸術に触れる機会の充実を諮りますとか文化芸術活動の育成と支援を進めますとか文化施設の整備充実を諮りますとか書いてある。これが市の基本的な上位計画ですので、これに基づいて今回は皆さんから意見を伺う中で市としての方針を固めようということでこの会議を開催していただいているとご理解いただきたい。

(委員)

決めたことは、建て直しをしますということと周辺の施設は一元化しますということだけである。建て直そうとするならば、その施設の席数はどうするのか、その中に展示室を盛り込むのか、それとどのような機能を盛り込むのかというような議論は、全部来年の建設委員会にもっていくということなら、議論が発展しないとか言いっぱなしになっているというところはある。

(委員)

それとどこへ建てるかということ。

(委員)

告示の第116号に文化施設等のあり方に関する検討委員会の設置要綱を読んでいて思ったが、ここにははっきりと、文化施設の再配置及び統廃合に関する事項で、文化施設というのは何かというと、磐田市福田公民館、磐田市竜洋公民館、磐田市文化振興センター、磐田市民文化会館及び磐田市アミューズ豊田、これについて文化施設等の再配置及び統廃合に関することと書いてある。これは耐震等でたいへん、だからどうするのか。つぶしてしまっただけのままにしておくのか、それとも何か造るのかということをごここで聞いているだけである。その委員会。だから、市民会館については、他の施設を一元化しながら建て直すということが結論。求めていることはここで、それから後の話は、来年度ということである。

(委員)

細かくわからないところもお話の中で、理解してきた。豊かな人間性の形成を目指して、市が進んでいるという方向性と一元化していくということがいいと思う。

(委員長)

どこへ建てるかとどのくらいの規模で建てるのかということが全然なくて、財政の状況から逆算して、どのくらいの状況までお金が使えるのかといった問題は、次の建て替えの委員会でというようなことですから、そちらの方で検討するということです。それでは事務局にお返しします。

(企画部長)

委員さんの方から、舞台芸術に特化するのとか、展示機能はどうするのか、小ホール

はどうするのか、広域的なすみ分けをした方がいいんじゃないかとか、その辺の意見を伺って、次年度の検討機関の方には、意見として伝えていきたい。

(事務局)

いちばん最初の文化行政の必要性・重要性ということについて、話の方がまとまらずにそのまま終わっているが、もう一度確認をさせていただく。一元化であったりとか閉館だったりとか、そういった重要な部分については、皆様の方にも合意が得られたと思っているが、ここの必要性・重要性の表現の仕方、これについてはごく一般的・基本的な部分と部長の方から説明させていただいたので上位計画である総合計画の中に文化振興の部分も記載させていただいてあるが、このような表現でよろしいかどうか、再度確認をさせていただければと思う。

(委員)

以前、文化政策についての見解はと言われて、磐田市の文化政策についてということで、磐田市文化芸術振興計画というものを出示してもらっている。だから、この計画に沿ってやるという結論しかないと思う。それ以外のことをここで言っても、この計画はどうなってしまうということになるので、文化芸術振興計画に沿って、必要性もあり重要性もあるということでもいいんじゃないかと思う。